

宇都宮市立桜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校での役わりや係の仕事にせきにならなくて取り組んでいる」には、9割以上の児童が「はい」と答えている。また、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスのきまりなどを決めていく」というのは、市、県の平均を上回っていることから、学級に居場所を感じ、協力して活動する児童が多く、意欲的である。

○「総合的な学習の時間の学習は好きですか」には、「はい・どちらかといえば、はい」に9割近くの児童が回答している。学習内容に興味をもち、探究的な学習に意欲的に取り組んでいる。さらに調べるためのスキルを身に付け、問題を解決する力を付けさせていきたい。

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」で「はい・どちらかといえば、はい」と回答した児童は67.4%、また、「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」で「はい・どちらかといえば、はい」と回答した児童は84.8%と、市、県の回答を上回っていることから、自ら課題を見つけ自力で解決しようとする姿勢が窺える。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」に対して、45.6%が「はい・どちらかといえば、はい」と回答しており、市の60.2%、県の56.8%に比べ大きく下回っている。アンケートの結果からクラスは発言しやすい雰囲気と感じている児童は、市や県の平均よりも上回っているため、個々を認め自信を付けることでさらに考えを深め、書く力をつけさせていきたい。

●「毎日、同じくらいの時頃に寝ている」では、県平均を15、9%下回っているが、「早ね、早おきを心がけている」では、県平均を4、9%上回っている。また、「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」では、県平均を上回っている。これらのことから、睡眠時間は十分に取っているが生活のリズムはまだ不規則な児童もいるので、家庭と連携し規則正しい生活のリズムを作り、児童の意識を高めていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」で「はい・どちらかといえば、はい」と回答した児童は39.2%と、市の60.2%、県の63.5%を大きく下回っている。一方で「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」の回答では「はい・どちらかといえば、はい」が97.8%と、市の94.4%、県の91.4%を上回っているため、復習の大切さや家庭学習の取り組み方についても、今後も指導を充実させていくことで、さらなる基礎基本の定着を図っていきたい。